

## 県民公開講座 「走快人生 はしって健康」

と き 平成 28 年 11 月 13 日 (日) 13:00 ~ 15:15

ところ 山口県総合保健会館 2 階「多目的ホール」

〔報告：広報委員 石田 健〕



今年度の県民公開講座は、「走快人生 はしって健康」をテーマに 11 月 13 日 (日) の 13 時から山口県総合保健会館多目的ホールで開催した。

まず、「いのち きずな やさしさ」をテーマに開催したフォトコンテストの表彰式を行った。第 7 回目となる今回は、全国から 147 作品の応募があった。すべての応募作品が隣の会場に展示され、多くの来場者が熱心に作品を鑑賞する姿が見られた。ステージ上では 8 名の受賞者のうち、当日出席された優秀賞及び下瀬信雄賞 各 1 名、そして佳作 2 名の計 4 名の受賞者の方々に賞状並びに記念品が授与された。その後、写真家の下瀬信雄 審査委員長による受賞作品の講評が行われた。

続いて下瀬審査委員長に、今度は「写真家 下瀬信雄」として「1 枚の写真、たくさんの幸せ～



表彰式

写真で綴る家族の歴史」というタイトルでの講演を行っていただいた。心にしみる写真の背景を考えるとというお話で、逆光の写真は被写体が浮き上がる。但し、レンズに光源を入れない、反射光で写すことが大切である。光を探す、光と影の織りなす彩にこそ、美が感じられるとの内容であった。

トリは、メキシコオリンピックでのマラソン銀メダル獲得等の輝かしい経歴の持ち主である君原健二氏による特別講演「ゴール無限」である。

君原選手は高校時代は目立たなかったが、八幡製鉄所の高橋 進 氏から指導を受けて、マラソンランナーとして開花した。初マラソンは 1962 年の朝日国際マラソンで 3 位に入賞されている。東京五輪では本来の実力が出せなかったが、それでも 8 位という好成績であった。この時に銅メダルを取られた円谷選手のゴール前の戦いの様子は、テレビで放映され、今でも全国民の語り草になっている。

君原選手は東京オリンピックの半年後に高橋コーチの勧めで結婚され、1966 年にはボストンマラソンで優勝、同年のバンコクアジア大会でも優勝された。このボストンマラソンでの優勝は 50 年後の 75 歳になった 2016 年 4 月に、同大会の優勝者にのみ与えられる特別招待で完走されることにつながっている。

1968 年 10 月、メキシコオリンピックで東京

の雪辱を晴らす 2 位入賞、銀メダルを獲得された。マラソンで後ろを見ることはバランスを崩すため、これまでできてこなかった。しかし、東京オリンピックの教訓もあり、ゴール手前で初めて後ろを見た。競技場内の大歓声で、後ろのランナーとの距離や、ランナーの息使い、脚力の強さが伝わらない。ここまで来たら抜かれたくないと一生懸命走った。その結果、3 位の選手に数秒差を付けて逃げ切ることができた。

メキシコオリンピック前に、高橋コーチにモルモットとしてメキシコでの高地トレーニングに参加させられたと、冗談交じりに仰った。しかし、高地トレーニングをしていたことが、銀メダルに繋がったとスポーツ医・科学専門委員会は判断した。その後、高地トレーニングのノウハウが積み上げられ、1990 年以後には高地トレーニングはあらゆるスポーツにおける重要なトレーニングの一つになっている。

その後も 1972 年 10 月、ミュンヘンオリンピックで 5 位と連続入賞されている。君原選手は生涯 74 回フルマラソンに出場して、74 回、完走を記録されている。

第一線を引退後は 1991 年まで新日本製鐵に勤務され、1992 年以後は九州女子短期大学で教鞭

をとられた。その後は講演活動や市民マラソンのゲスト出場などの地域貢献活動が続けられている。1997 年から 2009 年まで北九州市教育委員、2009 年から 2012 年まで北九州市立大学の特任教授を務められた。

今回の講演で君原氏は次のように仰った。

「人生はよくマラソンに例えられるが、私はむしろ、人生は駅伝であると思う。前を走った者からたすきを受け継ぎ、後に走る者につなぐ…。途中で走ることをやめるわけにはいかないのが人生である。また、無駄な努力などあり得ない。人間に与えられた最大の力は努力である。」

「苦しい時にはあの電柱まで走ろう、あの電柱まで頑張ろうと自分で自分を激励しながら走ると、小さな目標でも達成すれば、達成感という喜びがある。苦しいというより楽しくなる。

自分はライバルに恵まれて刺激的な競技生活を送ることができた。東京オリンピックに出場した選手は、その多くが自分で命を絶っている。メダルを取ってほしいという国民の期待が、想像を絶する大きなプレッシャーになることもある、また練習することはもろ刃の剣である。」

素晴らしい言葉だと感動しました。



フォトコンテスト応募作品展示会場